



Anubis 設定例 - Danteとの接続

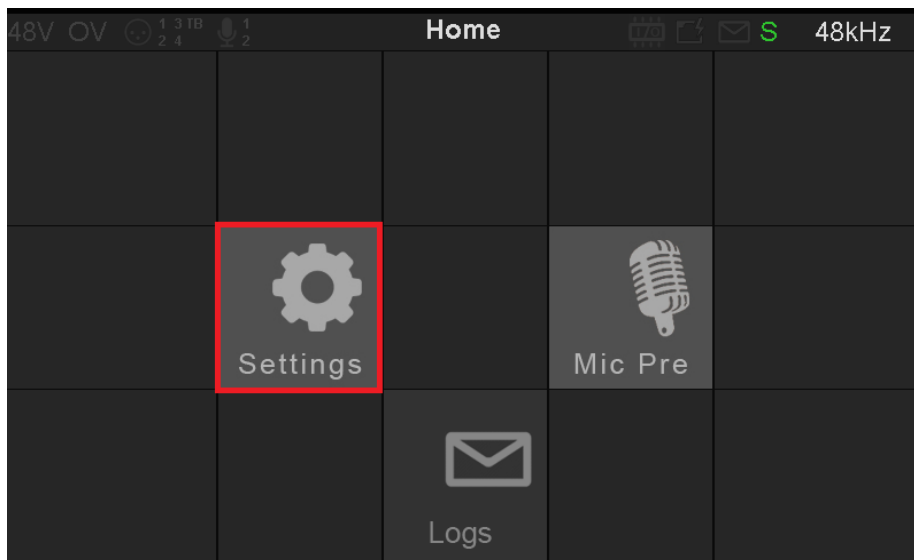
Anubisは様々な機能を備えており、それらを自由に設定して使用することができます。
ユーザー マニュアルにも様々な設定例を記載していますが、この文章ではより具体的な設定方法を解説します。

Danteシステムと接続し、Anubisをスポーツ中継解説者用のトークボックスに使用します。

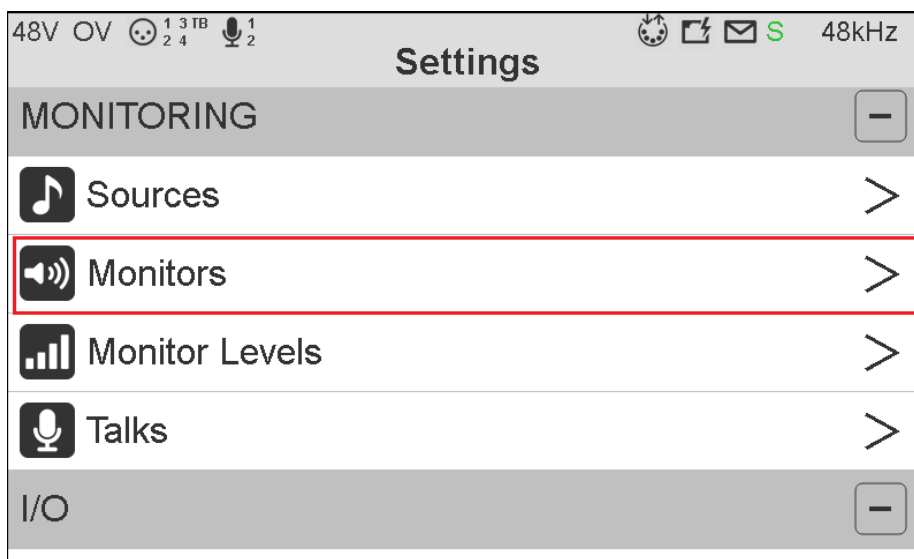
Talkスイッチを押したときのみ、XLRに接続されたマイクの信号がDanteシステムに送られるように設定します。これは、Anubis側から見ると「トークバックの音声を送る」事になると言い換えられます。そのためには、まずAnubisからの出力を新たに作成します。

Anubis側の設定

1. Homeボタンを長押ししてSettingsに入ります。

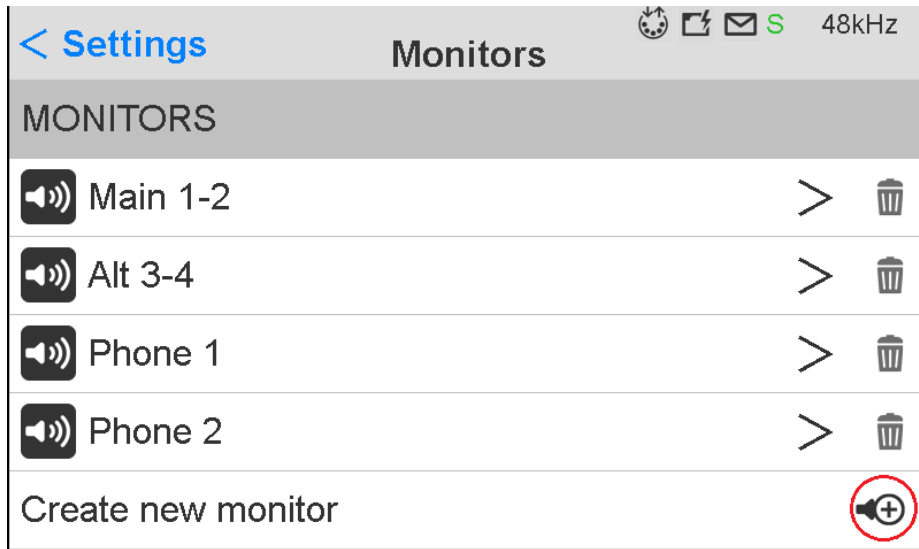


2. 下にスクロールし、Monitorsにタッチします。





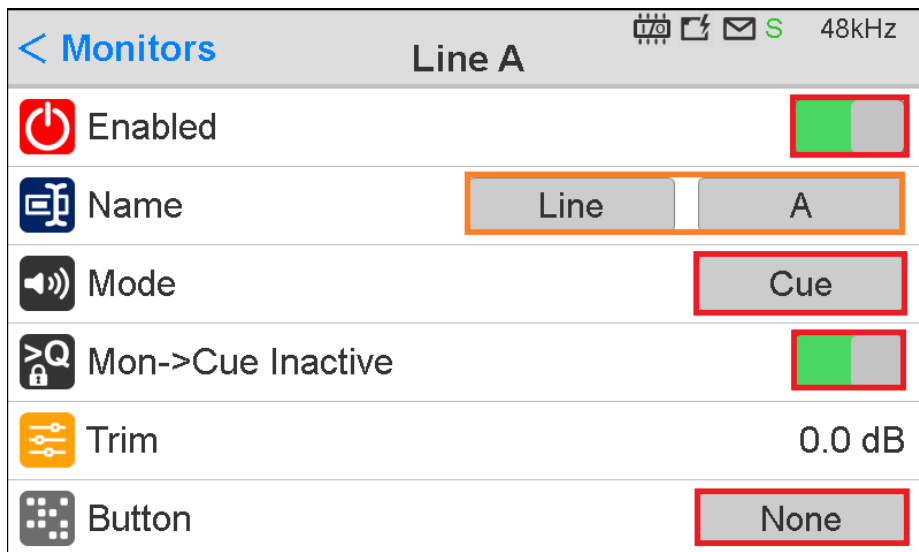
3. Create new monitor をタッチして新しいCueを作成します。



4. HeadphoneやSpeakerとは異なり、Cueはこれらとは独立した音声を送ることができます。そのため”Mode” は必ず ”Cue”に設定して下さい。

“Name” は後でPCのWebインターフェースから名前を書き換えられますので、適当に設定して下さい。

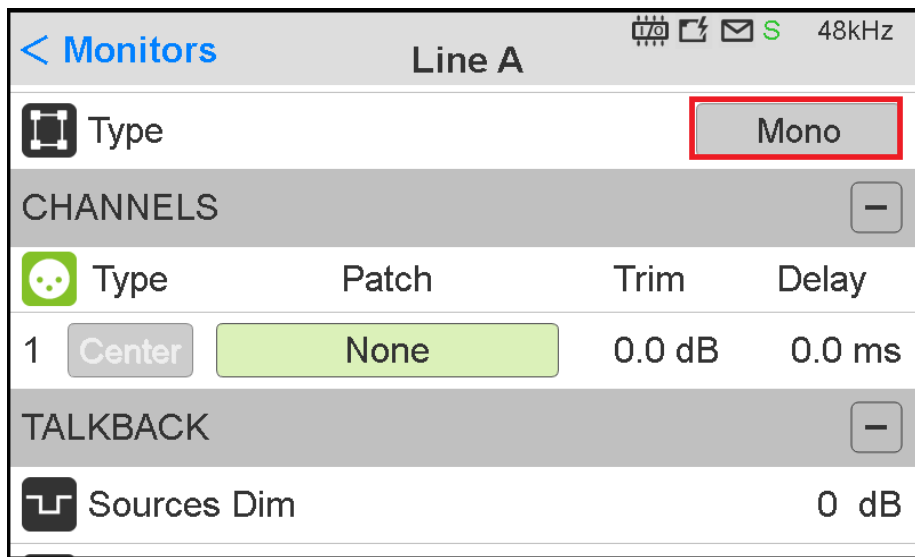
“Button” は特に与えなくても結構です。





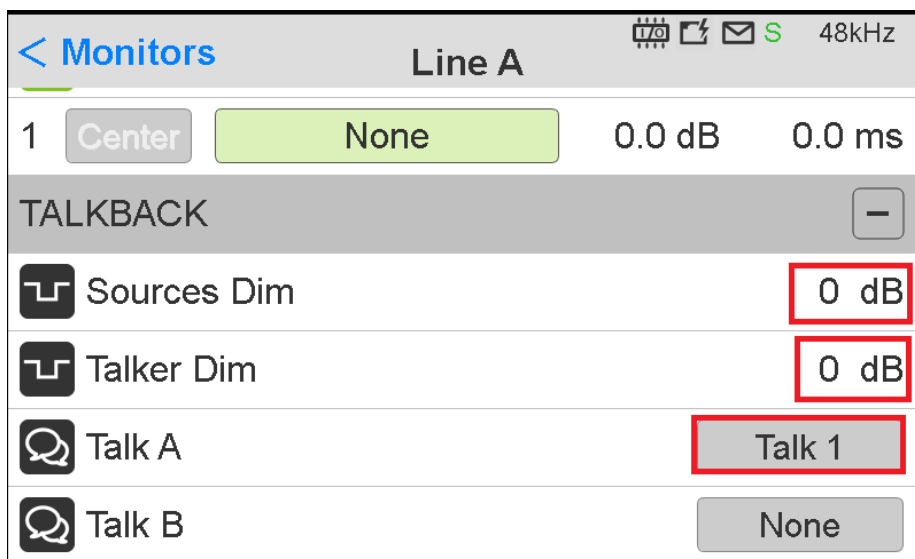
5. 少し下にスクロールします。
送るTalkの回線はモノラルですので、“Type” は “Mono” に設定します。

出力はDanteに出力しますので、ここでは設定しません。



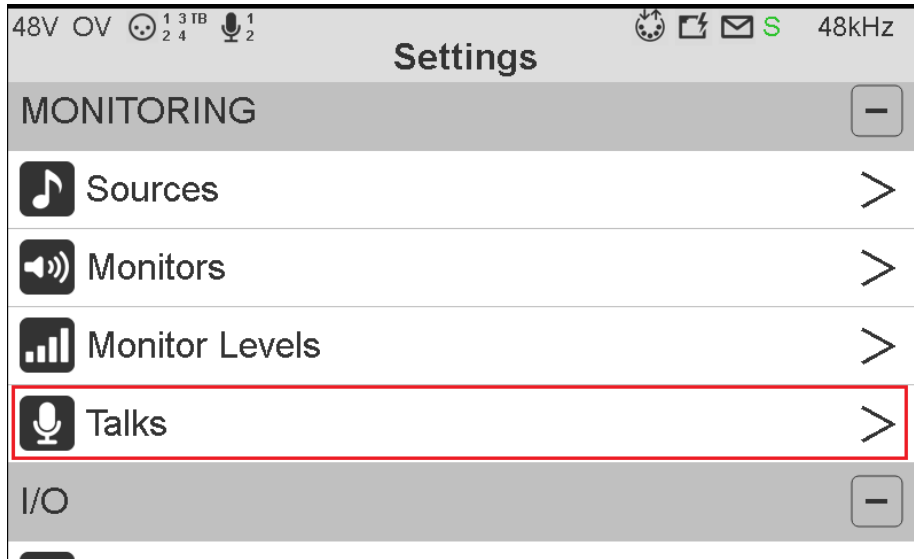
6. さらに下にスクロールし、“Talk A” を “Talk 1” ボタンでOnになるように設定します。

信号がDimするのは避けなければならないので、“Dim” の設定は “0dB” のままに設定してください。

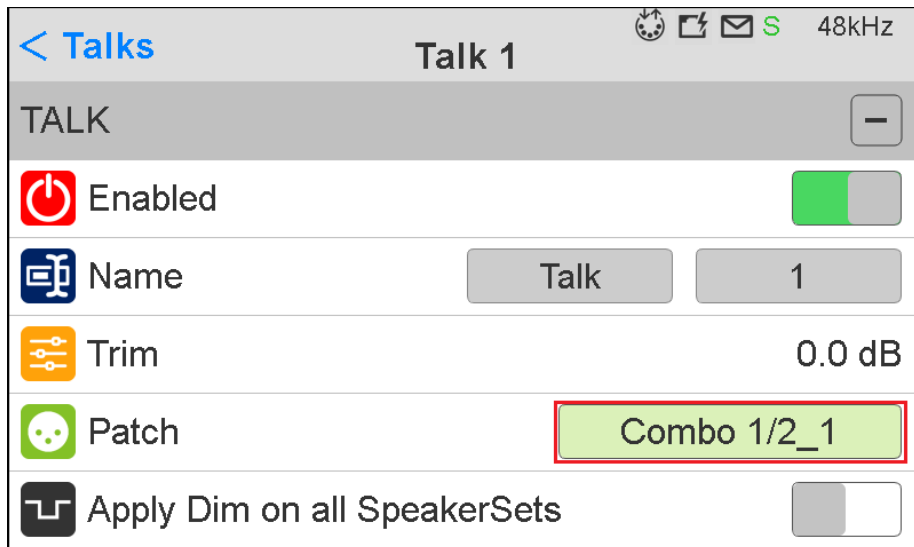




7. 次にMonitorの設定を抜け、Talksの設定を行います。



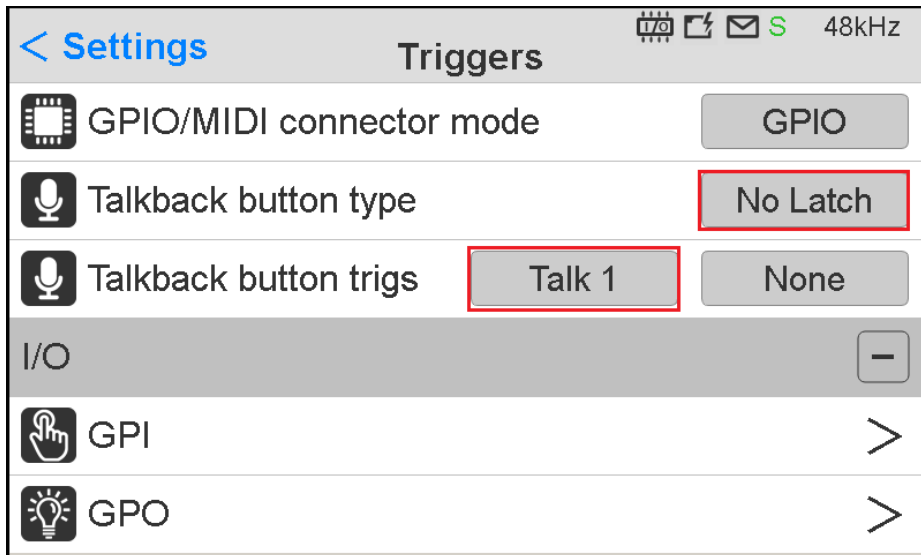
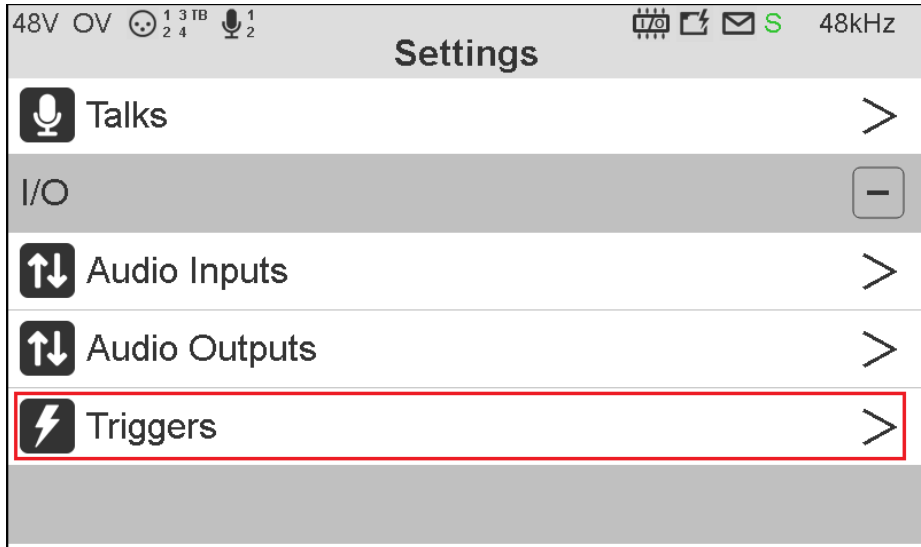
8. Talk 1 の入力ポートを “Combo 1/2_1” に設定します。



Talksの設定は、これで終わりです。



9. 最後に、喋るタイミングとスイッチの動作を合わせるため、Triggersを設定します。



”Talkback button type” は、次の様に働きます。好みのモードに設定してください。

設定名	動作
No Latch	ボタンを押しているときだけマイクがOnになります。
Latch	ボタンを押してマイクがOn、もう一度押してOffになります。
Auto Latch	ボタンを短く押すとLatchモードになり、長く押すとNo Latchモードとなります。

※注意: TalkがOnの時、”Talk 1” のボタンは、青く点滅します。

以上の設定により、TalkボタンがマイクのON/OFFを制御できるようになりました。後は解説者マイクからの出力回線をDanteへ、解説者へのモニター回線をDanteから、接続すれば設定は完了となります。



Dante > Anubis のフローの作成

このセクションでは、DanteからAnubisへのストリームを作成します。

10. PCでDanteコントローラを起動し、Device > Device View を開きます。
11. Danteデバイスを選択します。
12. AES67 Config タブを開きます。
13. AES67 mode を Enable にします。Disable であった場合は、再起動が必要となります。
Multicast Address のプリフィックスが、239.69.xxx.xxx であることを確かめてください。

Receive Transmit Status Latency Device Config Network Config AES67 Config

AES67 Mode

Current: Enabled
New: Enabled

Tx Multicast Address Prefix

Current Prefix: 239.69.XXX.XXX
New Address Prefix: Set

Reset Device

Reboot

14. Dante Config タブを開き、Latency を 2ms または 5ms にします (AES67 の推奨値は 3ms です)。

Receive Transmit Status Latency Device Config Network Config AES67 Config

Rename Device

Sample Rate

Sample Rate: 48k Pull-up/down:

AES67 enabled: sample rate configuration not supported. This device does not support Pull-up/down configuration.

Encoding

Preferred Encoding: PCM 24

Clocking

Unicast Delay Requests: Enabled

Device Latency

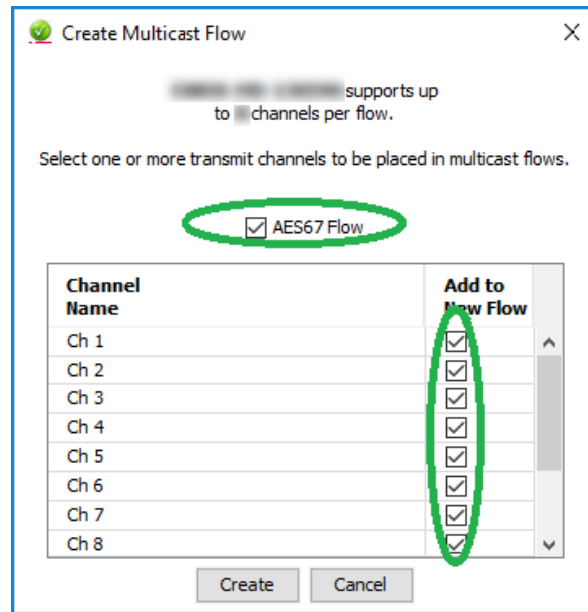
Latency: 2.0 msec

Reset Device


Reboot

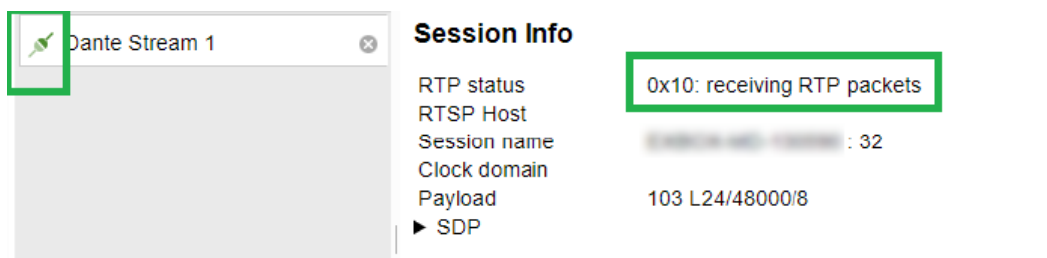
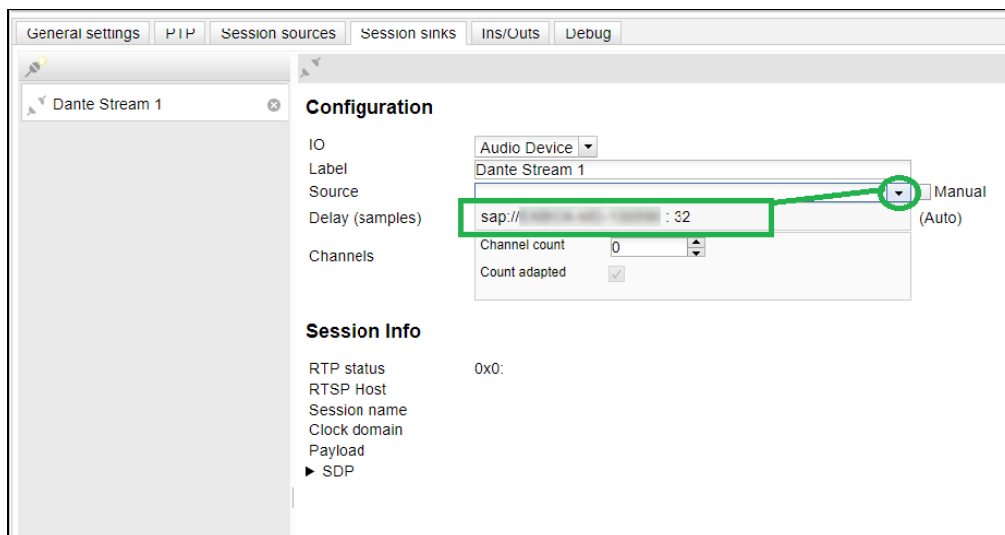
0.25 msec
0.5 msec
1.0 msec
2.0 msec
5.0 msec

15. Device のドロップダウンメニューで、Create Multicast Flow を選択します。
16. Anubisへ送るチャンネル数(ヘッドフォンで聴かせたいチャンネル数)分の AES67 Flow ボックスにチェックを入れ、Create をクリックします。



Anubis でこのストリームを受けます


17. ANEMANで、View にあるAnubisのアイコンを右クリック > Web Service > Advanced を選択して Anubis の Advancedページ を開きます。
18. Session sinks タブを開き、左上の  アイコンをクリックしてsession sunk を作成します。
19. 受けたいチャンネル数により、既に設定されている “DAW” や “Stream” を選択します。
20. Source フィールドの隣りにある矢印をクリックすると、前のセクションで作成したDanteデバイスからの SAP source が表示されているはずですので選択します。
21. 接続されると左コラムの矢印が緑色表示となります。

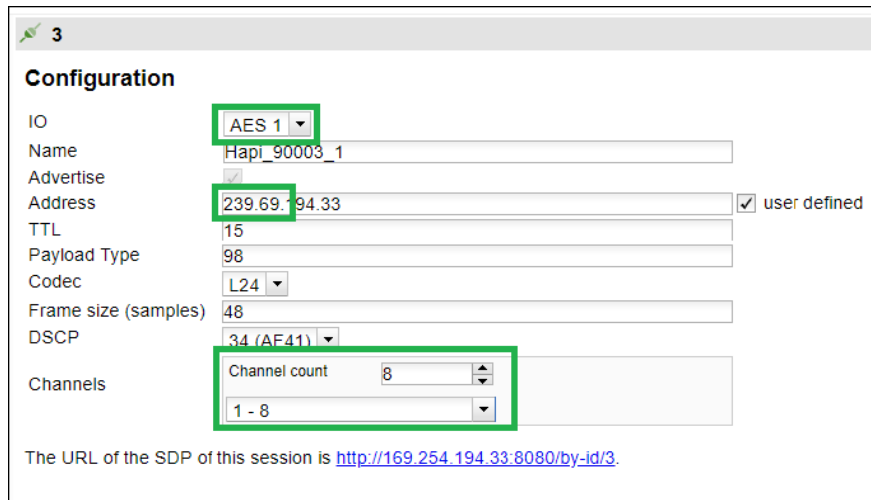




- 後はAnubis本体の "Source セレクター ページ" で、DAW または Stream を選択して、Headphoneでモニターできるようにしてください。

Anubis のマイクの出力をDanteに流す

- Session source タブを開きます。
- 左上の  アイコンをクリックして、右の欄でマイクからの信号である "Cue" にチェックを入れます。
- "Address" に "239.69.xxx.xxx" を入力し、必要なチャンネル数(1 または 2)を設定します。Codec は "L24", Frame size は "48" に設定してください。



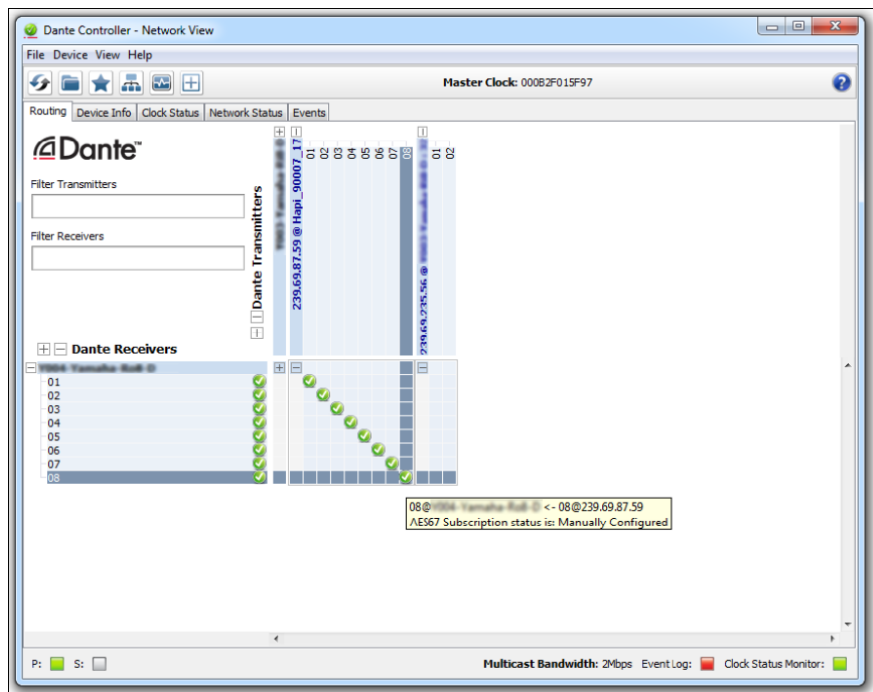
The screenshot shows the "Configuration" window for session ID 3. The following fields are highlighted with green boxes:

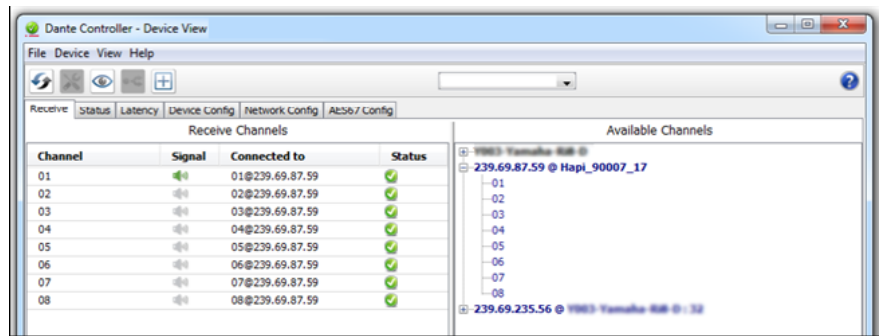
- IO: AES 1
- Name: Hapi_90003_1
- Address: 239.69.194.33 (with a checked "user defined" box)
- Codec: L24
- Frame size (samples): 48
- DSCP: 34 (AF41)
- Channels: Channel count 8, and a list box containing 1 - 8

The URL of the SDP of this session is <http://169.254.194.33:8080/by-id/3>.

Dante Controller でAnubisからのストリームを受ける

- Dante Controller では、前のセクションで作成したAnubisからのストリームが表示されているはずです。このストリームを送りたいInputに接続してください。





注意:この設定をハブ経由で行う場合、設定するPCは必ずDanteポートに接続してください。